

2017年（平成29年） 12月1日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

11/16~11/22のNYMEX・WTIは、55.14~58.02ドルの範囲で推移した。

11月23日は、感謝祭休日のため休場。

週末24日は、カナダから米国に至るキストーンパイプラインの漏洩事故による稼働低下で、WTI原油の受け渡し点であるクッシングの在庫が低下し、供給ひっ迫懸念が広がり、3営業日続伸した。また、2営業日連続で2015年6月末以来約2年5カ月振りの高値を更新した。1月限の終値は前日比0.93ドル高の58.95ドルだった。

週明け27日は、先週末のペーカー・ヒューズ社発表の米国国内石油掘削リグ稼働数は747基と前週比9基増となったほか、EIA月報で米国の原油生産が前年同期比15%増の日量966万バレルに達している等、シェールオイル増産の動きが強まっていること、ロシアのサハリン1が来年から増産になるなど、30日のウイーンでのOPEC・非OPEC合同会議を前にロシアの協調減産延長合意が依然不透明であることから、4営業日振りに反落した。1月限の終値は前週末比0.84ドル安の58.11ドルだった。

28日は、OPEC総会、OPEC・非OPEC合同会議の開催を控え、ファリハ・サウジ石油相の通常の在庫水準到達時期の見通しに関する意見の相違を認める発言、マズルーイUAE石油相の減産延長議論は簡単ではないとの発言が、協調減産延長合意への過度の期待感を冷やし、続落した。1月限の終値は前日比0.12ドル安の57.99ドルだった。

29日は、翌日の合同会議を前に、減産延長に対する懐疑論が高まったこと、EIAの米国在庫週報では、米国原油在庫の取り崩しは想定より大きかったものの、ガソリン・中間留分

在庫の積み増しが予想以上に大きかったことから、3日続落した。1月限の終値は前日比0.69ドル安の57.30ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、前週59.60~60.90ドルの範囲で推移した。11月24日61.40ドル、27日61.60ドル、28日61.20ドル、29日61.10ドルで推移した。

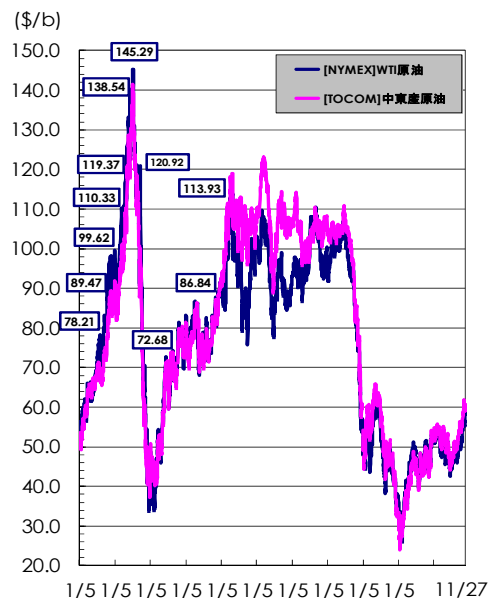
為替は、前週112.19~113.07円の範囲で推移した。11月24日111.47円、27日111.66円、28日111.00円、21日111.62円で円高気味に推移した。

財務省が29日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は、40,456円/klとなり、前旬を1,182円上回った。ドル建てでは56.78ドルで前旬比1.26ドル高。為替レートは1ドル/113.28円。

主要元売会社の12月第1週に適用する卸価格は、ガソリン、軽油は全社据え置き、灯油は据え置きと0.5円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりしたが、為替レートの円高でほぼ相殺され、原油調達コストはわずかな値上がりとなった。

そのような中で、11月27日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.0円の値上がり、軽油は同0.9円の値上がり、灯油も同1.0円の値上がりだった。ガソリンは11週連続の値上がり、軽油も11週連続の値上がり、灯油も11週連続(18ベース)の値上がりだった。この週(11月第4週、従来の表記「11月第5週」から変更致しました)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに0.5~1.0円の値下げだった。

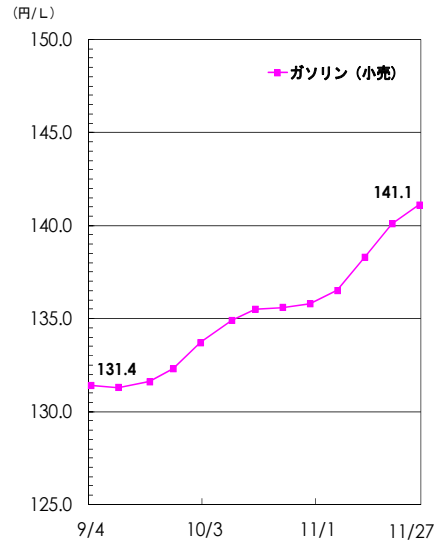
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/19 ~ 11/25	3,654 ▲17	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.3 ▲0.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/25	13,017 ▼-545	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/27	60.61 ▲0.26	▲15.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/27	58.11 ▲2.02	▲11.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	56.78 ▲1.26	▲7.70
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	40,456 ▲1,182	▲8,041
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.28 ▼-0.81	▼-8.29
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/27	112.66 ▲0.53	▲0.58



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/19 ~ 11/25	1,070 ▲ 33	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	934 ▼ -33	▼ -	
	輸出	"	202 ▲ 190	▲ -	
	在庫	11/25	1,633 ▼ -66	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/21 ~ 11/27	59.0 ▼ -0.8	▲ 16.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/21 ~ 11/27	58.1 ▼ -0.4	▲ 13.9
		(TOCOM/中部)	11/27	58.3 ▼ -1.7	▲ 14.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/27	141.1 ▲ 1.0	▲ 15.5	

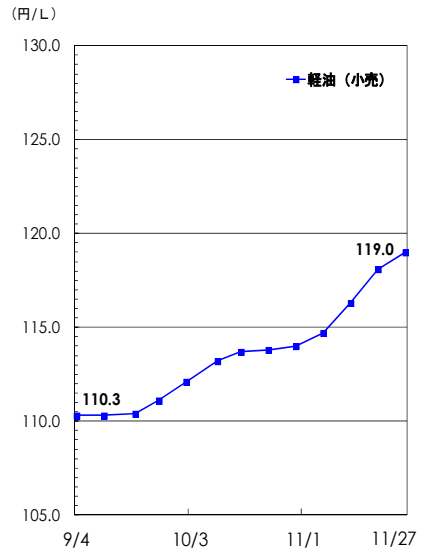
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

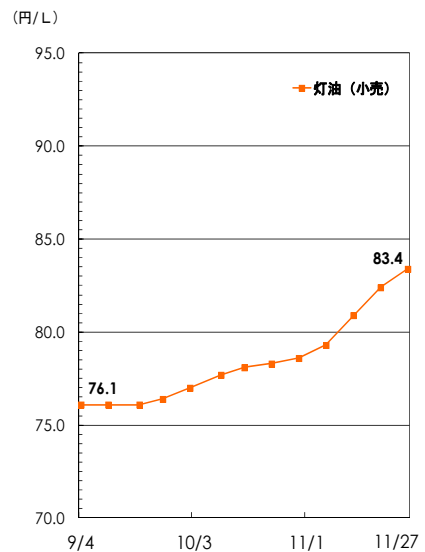
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/19 ~ 11/25	809 ▼ -31	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	604 ▼ -48	▼ -	
	輸出	"	142 ▼ -17	▲ -	
	在庫	11/25	1,451 ▲ 62	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/21 ~ 11/27	58.7 ▼ -0.6	▲ 14.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/21 ~ 11/27	58.0 ▲ 3.0	▲ 15.0
		(TOCOM/中部)	11/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/27	119.0 ▲ 0.9	▲ 14.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/19 ~ 11/25	459 ▲ 116	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	498 ▲ 298	▲ -	
	輸出	"	98 ▲ 98	▲ -	
	在庫	11/25	2,525 ▼ -137	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/21 ~ 11/27	60.3 ▼ -0.6	▲ 11.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/21 ~ 11/27	59.1 ▼ -0.2	▲ 11.3
		(TOCOM/中部)	11/27	60.0 ▼ -1.0	▲ 13.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/27	83.4 ▲ 1.0	▲ 16.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月29日のNYMEX市場WTI原油は、キストーンパイプラインの漏えい事故のためカナダ産原油の送油量が削減されたことから、この日の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比340万バレル減と市場予想(230万バレル減)を上回る取り崩しであったものの、ガソリン・中間留分の積み増しが予想以上であったこと、翌日のOPEC・非OPEC合同会議に向け、閣僚級合同監視委員会は9カ月の協調減産を勧告したものの、依然として、減産の延長幅を巡るロシアの姿勢が不透明であることから、会議に対する懐疑論が高まり、3日続落した。1月限の終値は前

日比0.69ドル安の57.30ドル、2月限の終値は前日比0.69ドル安の57.36ドルだった。

EIAによると、11月27日時点のガソリンの小売価格は前週比3.5セント値下がりの1ガロン2.533ドル(75.3円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.4セント値上がりの2.926ドル(87.0円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは2週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、11月19日～11月25日に休止したトッパー能力は8.6万バレル/日で、前週に対して3.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は365.4万klと、前週に比べ1.7万kl増加。前年に対しては7.3万klの減少。トッパー稼働率は93.3%と前週に対して0.4ポイントの増加、前年に対しては4.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.1%増、ジェット/65.0%増、灯油/33.8%増、軽油/3.6%減、A重油/5.5%増、C重油/6.2%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比6.7万kl減)。軽油の輸出は14.2万kl(前週比1.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少した。前年比では、ジェット、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は93.4万kl(対前週3.5%減)と2週連続で前週比、前年比で減少となり、4週連続で100万klを下回った。ジェット4.9万kl(対前週29.3%減)、灯油49.8万kl(対前週149.1%増)、軽油60.4万kl(対前週7.3%

減)、A重油22.9万kl(対前週9.8%増)、C重油15.1万kl(対前週30.9%減)。

(単位:千KL)

	今週 (11/19 ~ 11/25)	前週 (11/12 ~ 11/18)	前週比
ガソリン	934	967	▼ -33 (-3%)
ジェット燃料	49	69	▼ -20 (-29%)
灯油	498	200	▲ 298 (149%)
軽油	604	652	▼ -48 (-7%)
A重油	229	208	▲ 21 (10%)
C重油	151	219	▼ -68 (-31%)
合計	2,465	2,315	▲ 150 (6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月25日時点の在庫は、ガソリン、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、軽油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは163.3万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては0.1万kl少ない。

灯油は252.5万kl、前週差13.7万kl減。前年に対しては16.6万kl多い。

軽油は145.1万kl、前週差6.2万kl増。前年に対しては9.5万kl少ない。

A重油は67.0万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては4.7万kl少ない。

C重油は203.8万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては17.6万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (11/25)	前週 (11/18)	前週比
ガソリン	1,633	1,699	▼ -66 (-4%)
ジェット燃料	1,060	1,036	▲ 24 (2%)
灯油	2,525	2,662	▼ -137 (-5%)
軽油	1,451	1,389	▲ 62 (4%)
A重油	670	672	▼ -2 (-0%)
C重油	2,038	1,981	▲ 57 (3%)
合計	9,377	9,439	▼ -62 (-0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月21日から11月27日までの原油コストは、原油価格は値上がりしたが、為替レートの円高でほぼ相殺され、原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン112~113円台で値下がり、軽油58~59円台で値下がり、灯油60円台でやや弱含みで推移した。

海上スポット価格は、ガソリン113~114円台で値上がり後出戻り、軽油60円台でやや弱含み、灯油59円台でほぼ

横ばいで推移した。

先物価格は、ガソリン111~112円台でやや上昇後弱含み、軽油58円台で横ばい、灯油58~59円台でやや値下がり後強含みで推移した。

元売の卸価格は、ガソリン、軽油が全社据え置き、灯油は据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月21日から11月27日の原油コストはわずかな値上がりだったが、製品スポット市況は、海上のガソリン・軽油、先物の軽油を除き、軒並み値下がりした。

12月第1週(11月30日~12月6日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月21日~11月27日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円の値上がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は横ばいだった。先物価格は、ガソリンが0.4円の値下がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は3.0円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替の円高がほぼ相殺し、原油コストはわずかな値上がりだった。

12月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油が全社据え置き、灯油は据え置きと0.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (11/21 ~ 11/27)	前週 (11/14 ~ 11/20)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	59.0	59.8	▼ -0.8
	灯油	60.3	60.9	▼ -0.6
	軽油	58.7	59.3	▼ -0.6

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (11/21 ~ 11/27)	前週 (11/14 ~ 11/20)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	58.1	58.5	▼ -0.4
	灯油	59.1	59.3	▼ -0.2
	軽油	58.0	55.0	▲ 3.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/21~11/27実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	▼ -0.4	▼ -0.6
灯油	▼ -0.6	▼ -0.2	▼ -0.4
軽油	▼ -0.6	▲ 3.0	▲ 1.2
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円高の141.1円を付け本年最高値を8週連続で記録、軽油は同0.9円高の119.0円、灯油は同1.0円高の83.4円だった。ガソリンは11週連続の値上がり、軽油も11週連続の値上がり、灯油も11週連続(18ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは46都道府県で、横ばいはなく、値下がりには徳島県の1県だった。全国最安値は埼玉県の136.2円(同0.1円高)、次が千葉県の136.9円(同0.3円高)、最高値は沖縄県の147.8円(同0.2円高)だった。最も値上がりしたのは、4.6円高の高知県(141.0円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売会社の卸価格は、各油種とも0.5~1.0円の値下げとなったが、11週連続でガソリ

ン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりしたが、為替レートの円高がほぼ相殺し、原油コストはわずかな値上がりだった。元売会社の卸価格は、ガソリン・軽油が全社据え置き、灯油は据え置きと0.5円の値上げに分かれた。次週(12月4日)のガソリンの小売価格は横ばい、需要期入りにもかかわらず転嫁不足が目立つ灯油の小売価格は小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)		
		今週 (11/27)	前週 (11/20)	前週比
小 売 価 格	レギュラー	141.1	140.1	▲ 1.0
	灯油	83.4	82.4	▲ 1.0
	軽油	119.0	118.1	▲ 0.9

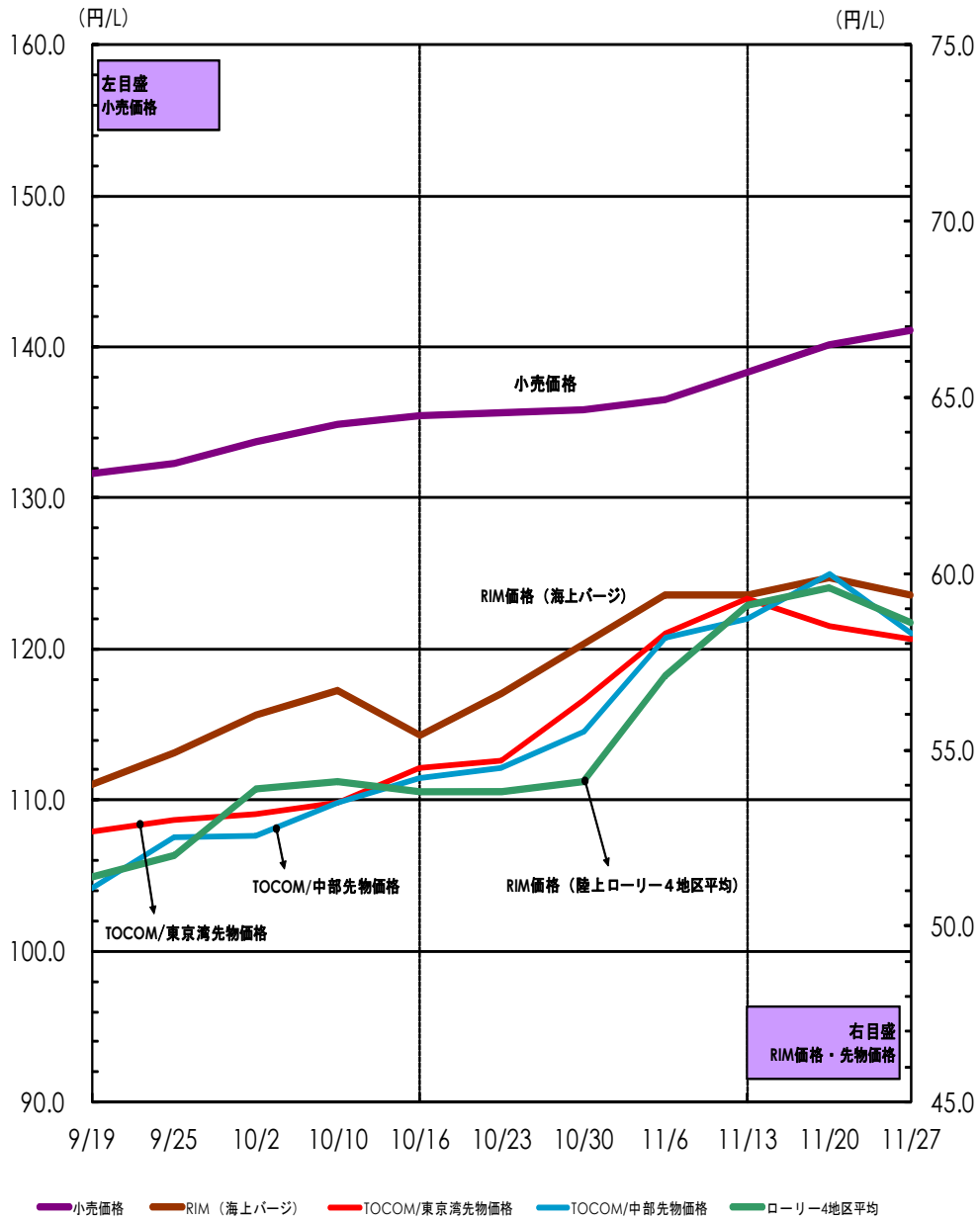
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/9/19 ~ 2017/11/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
 次回(2017第34号)の公表は、12/8(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
 当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
 また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
 当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
 「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
 中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
 中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
 原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
 TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。